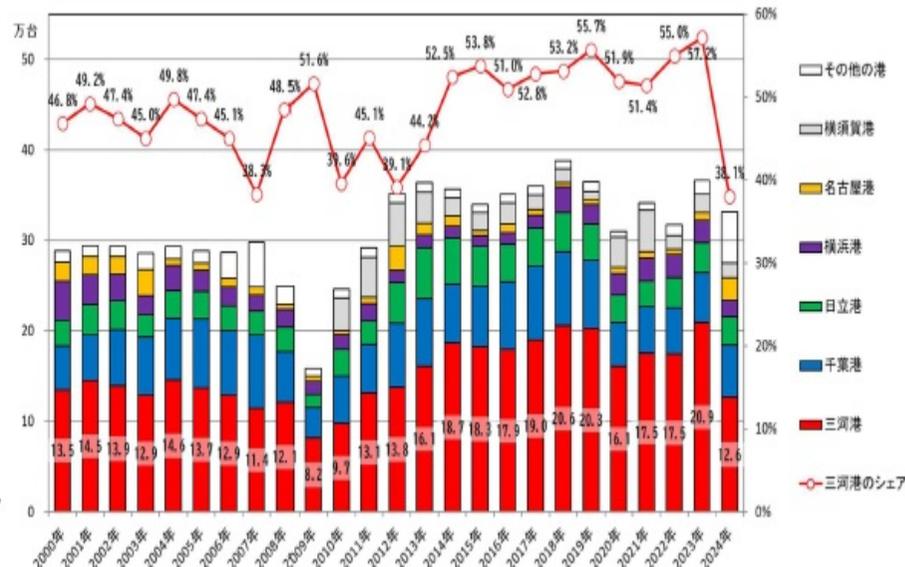
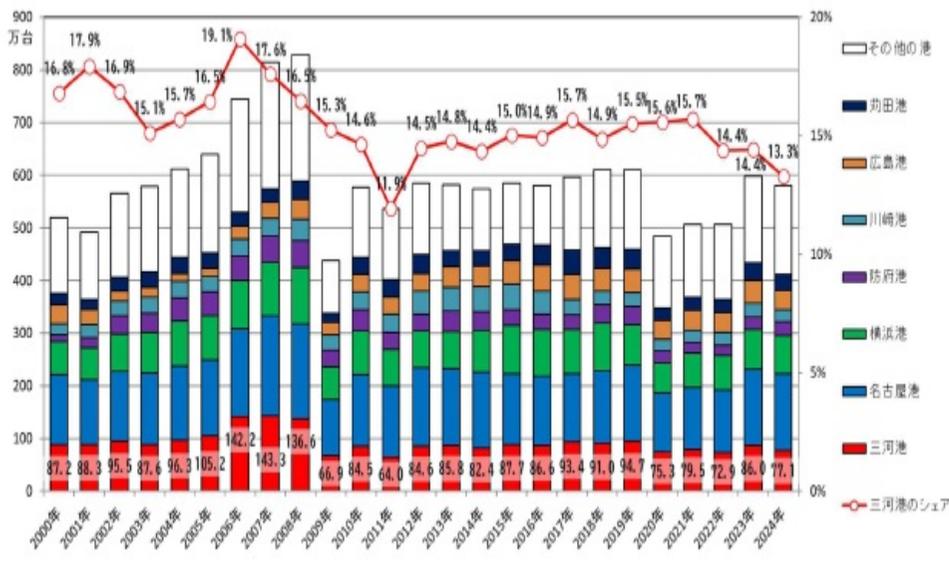


# 令和6(2024)年度 港湾振興・港湾基礎調査合併費の内 三河港利用促進検討調査業務 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

## 1. 業務の目的

三河港が地域産業の持続的発展に寄与する港湾であるためには、港湾物流や企業活動の適切な状況把握やそれに応じた施策の検討が三河港の振興業務として必須である。そこで本調査は、コンテナ、完成自動車、その他貨物を主題に、三河港の集荷策、利用促進策を検討する。

## 2. 調査結果(一部抜粋)



### ■輸出港湾の取扱状況

日本から海外への完成自動車輸出台数は、2023年は大幅に回復したが2024年については579万台で前年比3%減であった。中国や欧州市場での需要の冷え込みと、新興国市場での需要に対応するための海外生産シフトの進行が要因として考えられる。

港湾別の輸出台数を見ると、最も輸出台数が多いのは名古屋港の146万台(前年145万台、1%増)、次いで、三河港の77万台(同86万台、10%減)、横浜港の72万台(同75万台、4%減)である。三河港の輸出シェアは13.3%である。

それ以外の港湾では、マツダの輸出拠点である広島港が35万台(同43万台、19%減)、日産の輸出拠点である苅田港が31万台(同34万台、10%減)となった。

### ■輸入港湾の取扱状況

2024年の海外から日本への完成自動車輸出台数は33.2万台で、2023年と比較すると3.3万台(9.3%)減少した。減少の要因としては国内での自動車販売市場全体の低迷による影響や円高傾向による影響が考えられる。

港湾別の輸出台数を見ると、三河港が12.6万台(前年20.9万台、39.6%減)で32年連続全国1位となった。三河港の輸出台数の全国シェアは前年より大幅に減り38.1%となった。ヒアリングにおいてフォルクスワーゲンとステランティスでは前年を大幅に下回る輸出台数であることを確認しているが、2025年については2社とも輸出台数を増やす見込みであるので回復が期待される。

三河港に次いで、千葉港が5.8万台(同5.5万台、4.4%増)、日立港が3.1万台(同3.3万台、5.2%減)であった。これら以外には横浜港は1.8万台(同2.4万台、25.4%減)、横須賀港は1.6万台(同2.0万台、21.8%減)となった。